広報 Nikaho City
にかほ

雪舞う中 決意新たに「纏振り」

新年を迎え1月5日、金浦体育館で「消防出初式」が行われました。最前線で市民の生命と財産を守る消防関係者は、各々決意を新たにしました。

主な内容

■12月定例市議会 ……P 2～3
■まちの話題……P 4～5
■市役所から行政情報チャンネルP 6～7
（わくわく南極体験フェアほか）

『始まります！申告相談』をP12とP13の間に挟み込んでいます。

vol.152
2012 1.15
http://www.city.nikaho.akita.jp

がんばろう東北

白瀬南極探検隊100周年記念特集

その拾九

未知に挑む
～南十字星のもとに～
沈まない太陽と氷との戦い
～南極で根拠地の設営～

上陸の様子
（野村船長の日記から）

ノルウェーのフラム号と出会った後、明治45年（1912）1月16日、太陽が沈まない白夜の午後10時、開南丸は鯨湾にようやく停泊し、南極に上陸します。停船するや、白瀬隊長の命令を待ち構えていた陸上隊は、はしごが降りるのも待ちきれず、沿岸氷上の氷盤に飛び降ります。足かけ3年、待ち焦がれた南極の氷野にその1歩を印し、一同は歓喜の声を上げます。樺太犬たちは芝浦出航以来、シドニーでも検疫で下船できなかったため、辺りを駆け回ります。隊員たちにはその姿が喜んでいるように見えました。

氷盤（沿岸の氷）から氷堤（大陸から続く氷塊）までは約2km、厚さ6m前後の氷の平野が続いていて、隊員たちは氷盤から氷堤を目指します。多田はアンダーシャツと袴下2枚の上に真綿製のチョッキ1枚、上衣は上下とも改良防寒服、靴下1足の上に毛皮靴下、羅紗（らしゃ）靴、寒地帽、雪眼鏡を身につけます。白瀬は上衣を着けず、樺太などで用いる海豹（あざらし）皮のアイヌ靴を履き、武田、吉野もこれにならいます。他は上衣代わりの外套（がいとう）で、多田より厚着の隊員もいました。途中は汗をかくほどで、上衣を脱いだり、雪中靴を軽いわら靴に替えたりします。氷盤を2・5km位進んだところで、約60mの氷堤の絶壁に遭遇。氷盤と氷堤の境は微動し、怪しげな音が聞こえ、窪みからは海水が湧き出ていました。

かんじきを履き金剛杖をついて
荷物を運搬（三宅幸彦の墨絵から）

午後11時、零下10℃の中、一行は登坂路をスコップで開削。午前2時に一旦帰船し、祝いのブランデーと温かい雑炊が振る舞われました。

17日は午前8時に起床。氷堤の低い場所にルートを作ることに決め、氷堤が崩れる恐怖と激しく照り返す夏の南極特有の日差しと闘いながら、突進隊の荷物を運ぶための過酷なルート開削が続きます。武田と多田は、内陸にむかう突進隊用の根拠地を、氷堤上の南南東2・5km先に選定。ノルウェーの大きな根拠地も双眼鏡で見えました。

1月19日白瀬突進隊7人を見送る開南丸
（三宅幸彦の墨絵から）

18日は午後3時で根拠地設営作業を一時終了。翌日に再開するはずでしたが、野村船長が「氷の状況が悪く、すぐに上陸した方が良い」と、夜食に赤飯を食べた後、19日午前1時半に上陸準備を再開し、午前3時、白瀬、武田、三井所、花守、山辺の突進隊と村松、西川の観測隊が上陸。この7名は、皆と再会できないことを覚悟し、開南丸に残る沿岸調査隊や船員と今生の別れをしました。

県民ミュージカル ☆
白瀬中尉物語 南十字星のもとへ
またとない機会をお見逃しなく!!
1月22日(日) 大仙市大曲市民会館
2月5日(日) 秋田市文化会館
にかほ市バスでミュージカルツアー
詳しくは白瀬南極探検隊記念館へ

白瀬日本南極探検隊
100周年記念事業推進事務局
☎38－4670
白瀬南極探検隊記念館
☎38－3765

企画・編集／にかほ市広報委員会　発行／にかほ市役所
〒018－0192　秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地
☎0184－43－3200（代表）☎0184－43－7510（直通）
電子メールアドレス　info@city.nikaho.lg.jp
ホームページアドレス　http://www.city.nikaho.akita.jp